

わが国におけるサーバ・ワークステーションの平成26年度出荷実績を公表

IAサーバの出荷金額は前年を上回りサーバ全体の需要を牽引 サーバ統合等の進展により、高性能サーバの需要が高まる

ITプラットフォーム事業委員会では、サーバおよびネットワークストレージ製品に加え、ネットワークやミドルウェアも含めたITプラットフォームに活動の場を広げ、調査研究と関連市場拡大に向けた提言を行うことを目的に、活動を推進しております。

平成26年度のサーバ・ワークステーションの出荷実績を取り纏め、この実績発表とともに最近のサーバ市場動向、ならびにIT活用の現状調査結果内容について公表すべく記

者懇談会（5月26日（火））を開催致しました。主な発表テーマを紹介します。

平成26年度 総出荷について

需要の中心であるIAサーバは、台数は減少も、金額では前年を上回り、サーバ全体の需要を牽引しました。UNIXサーバとメインフレームは前年を下回ったものの、ワークステーションは前年を上回りました。

総出荷		平成26年度上半期		平成26年度下半期		平成26年度	
		台数	前同比	台数	前同比	台数	前同比
IAサーバ	台数	144,109	90%	164,571	91%	308,680	91%
	金額	96,291	102%	115,527	99%	211,818	100%
UNIXサーバ	台数	2,750	66%	3,332	99%	6,082	81%
	金額	25,672	82%	36,711	109%	62,383	96%
オープンサーバ合計	台数	146,859	90%	167,903	91%	314,762	90%
	金額	121,963	97%	152,238	101%	274,201	99%
メインフレーム	台数	108	57%	170	112%	278	82%
	金額	19,181	43%	37,020	140%	56,201	79%
独自OSサーバ他	台数	187	69%	271	87%	458	79%
	金額	1,721	85%	2,224	98%	3,945	92%
ワークステーション	台数	31,083	98%	43,855	103%	74,938	101%
	金額	6,081	109%	7,382	95%	13,463	101%

(単位：台・百万円)

平成27年度以降見通しについて

国内経済は、企業投資、個人消費から見た実体経済では十分な回復とはいえないものの、円安の定着による輸出増、大企業での賃金アップ、株価上昇、インバウンド増大による需要喚起等に加え、オリンピック対応を含む公共投資増等により、明るい兆しも見えてきております。IT分野においては、IoT (Internet of Things) の活用が進み、社会インフラの整備、セキュリティ対応強化等で幅広い需要が期待で

きることに加え、お客様企業においては、クラウド化や仮想化での満足度が高まり、更なる浸透が見込まれます。サーバにおいては、台数面では仮想化システムやサーバ統合が進むことによる抑制の要素はあるものの、安心・安全な社会の実現に向けて、幅広い業務におけるITシステムが増大することにより規模増も見込まれます。性能向上によるハードウェアの低価格化が進む一方で、高性能サーバの需要の高まりで金額増も見込まれます。

ITユーザトレンド2014 / 市場動向調査について

当事業委員会では、IT投資動向を始め、注力分野、ITプラットフォームの構築状況等のIT活用トレンドを捉える調査研究を1998年から実施してきました。本年度は「ITユーザトレンド2014/ビッグデータ・クラウド取組み動向調査」と題し報告書を発行致しました。<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=581&cateid=6>

記者懇談会ではこちらの内容を一部抜粋し報告しております。

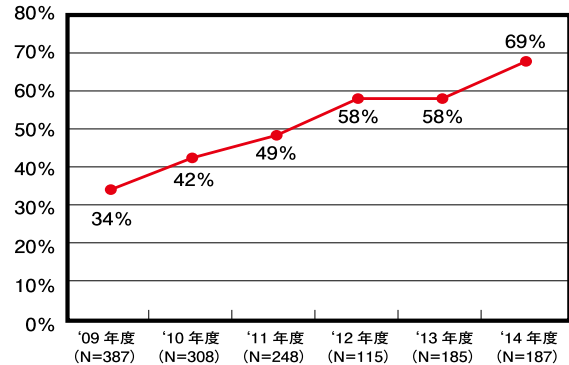
①サーバ統合、仮想化取組み推移

サーバ統合及び仮想化の取組みは年々増加しており、ともに6割強の取組み済みとなっております。

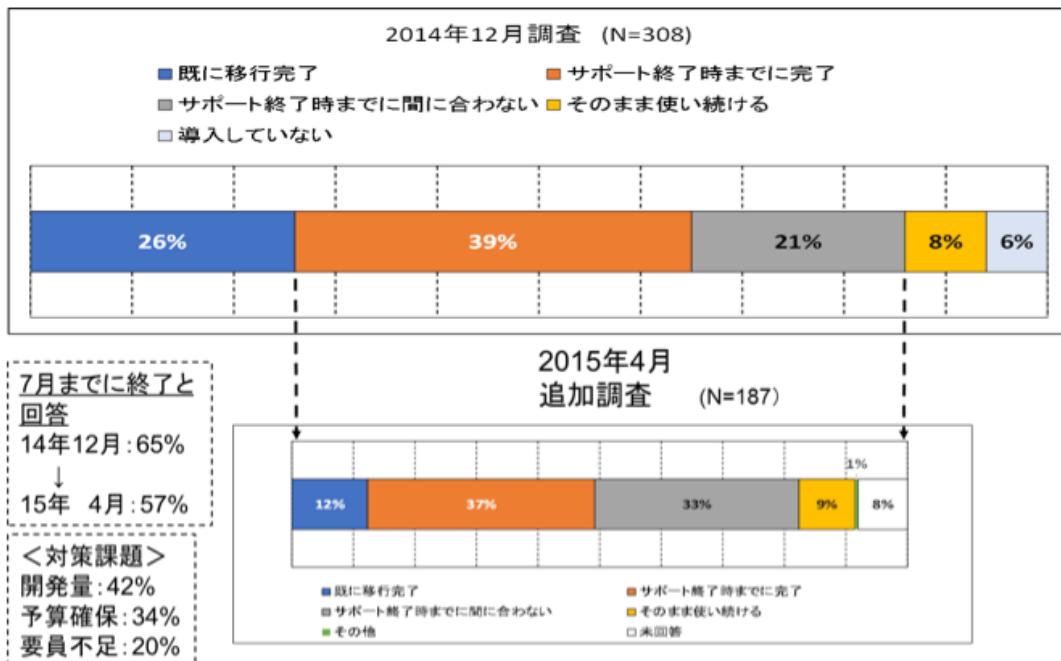
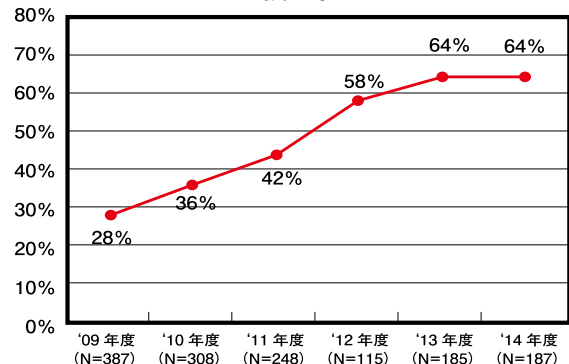
②Windows Server 2003EOS対策の現状

2014年12月では2015年7月までに「移行完了する」のは65%でしたが、2015年4月では57%に下がっております。その理由は、「開発ボリュームが多い」が40%で最も多く、移行作業量の負担が要因となっております。

サーバ統合



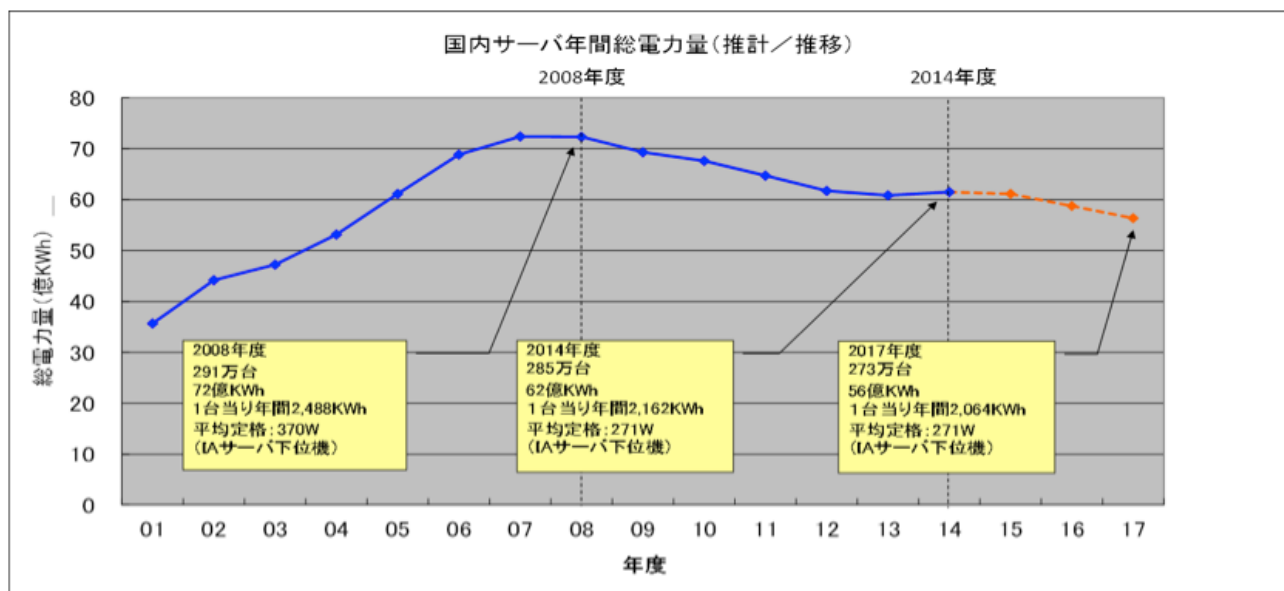
仮想化



サーバの年間総消費電力量に関する試算について

当事業委員会の傘下に設置したプラットフォームグリーンIT専門委員会では、サーバの年間総消費電力量の推定値の調査を行っており、今回、2001年度から2014年度までのサーバ出荷台数に基づく実績と、2017年度までの予測値を取り

まとめました。2014年度は62億kwhとなり、2013年度と比べると、1億kwh微増となりましたが、2008年度（72億kwh）を最大として、減少傾向は続いております。さらに、IAサーバ下位機の平均定格電力も、2008年度は370wであったものの、2014年度は271wであり、さらに下がる傾向にあります。



記者懇談会会場の様子

